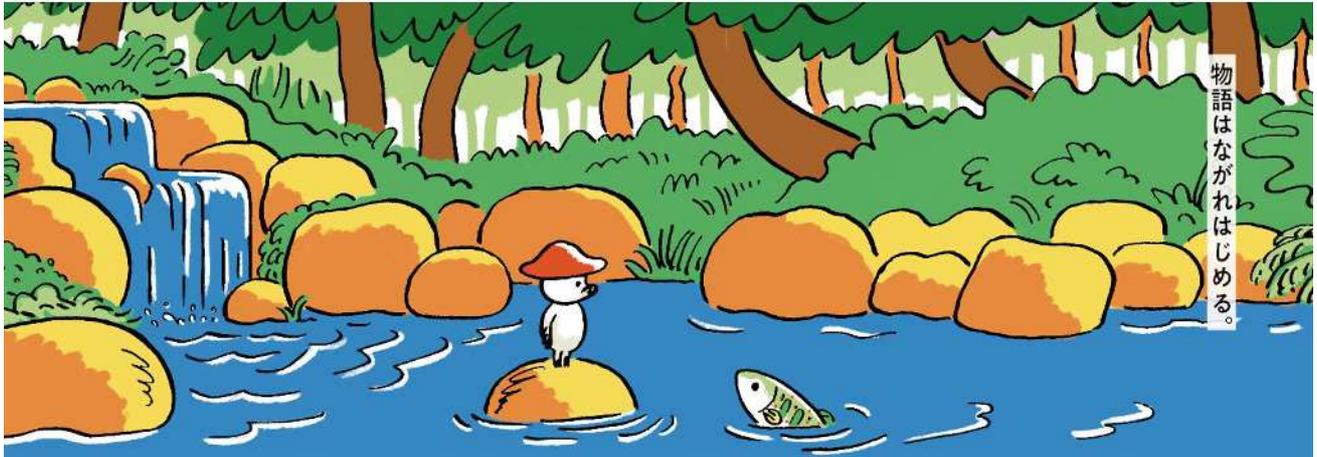


流域がつながり合う経済圏を考える全3回のトークイベント

根羽村 森とまちの流域学

2025年1月23日(木) 1月31日(金) 2月6日(木)

時間：全回 15時 - 18時 会場：根羽村役場 やまあいホール



【企画の経緯】

地域資源を磨き上げ、魅力を最大限に活用することで、オンリーワンの「輝く農山村地域」の創造を目指す長野県のプロジェクトに根羽村が「森林」を核とした取組地域に選出され、令和6年度から始動した。

根羽の森がこれから目指したい方向を示す旗印となるコンセプトを「流域がつながり合う経済圏をつくる」とし、源流の根羽村が矢作川流域の暮らしや企業、社会に対してできることはなんだろう？と村の皆さんと考え・学び、これからのプロジェクトへ活かしていくために企画した。

【人選】

根羽村プロジェクトチーム（役場、森林組合、(一社)ねばのもり）とコンセプトづくりを委託した(株)やまとわで3つのテーマごと検討・協議により決定。

【今後のアクションプラン】

流域サーキュラーエコノミーの考え方を取り入れた新しい森林経営の輪郭を明確にする＝恵みをいただく、森とつながり、地球に還元することを目標として、流域の森林資源で稼ぐ商品開発、売上の一部を森林保全に還元する仕組みの構築、森林ゾーニング調査、プロジェクト拡大のためのパートナーシップ開拓等のアクションを起こしていく。

第1回
「杉の森から考える流域の森づくり」
登壇者・司会者紹介



おざき やすたか
尾崎 康隆（一般財団法人もりとみず基金）

一般財団法人もりとみず基金 事務局長、高知県土佐町役場 SDGs推進室長。
高知県高知市出身。都内民間企業勤務を経て、高知県庁に入庁。主に地域振興、企画、起業促進等を担当。より手触りのあるフィールドを求め、2019年に土佐町役場に転職。企画部及びSDGs推進を担当し、2021年より新設のSDGS推進室長。水源地としての立地や森林と水の関係に着目し、都市と山村の共生を目指す。



こもり つぐき
小森 胤樹（フォレスターズ合同会社）

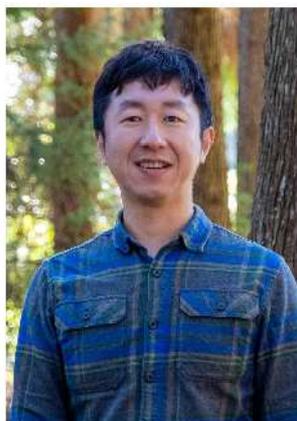
フォレスターズ合同会社 代表社員。
2002年、「日本の森林を守る仕事がしたい」と林業の現場技術を身に着けるため岐阜県郡上市の林業会社に現場技能者として転職。
欧州のフォレスターの存在を知り、地域の森林監理を継続的に見ていく、フォレスターが日本には存在しないことが問題だと考え、日本型フォレスターとして活動するため、森林総合監理士の資格を取り、2017年独立、2021年にフォレスターズ合同会社を設立。



おくだ ゆうじ
奥田 悠史（株式会社やまとわ）

大学では農学部森林科学を専攻。バックパッカー世界一周を経てライターとして地域の農家さんを取材する毎日を過ごし、デザイン事務所を立ち上げる。2016年に「森をつくる暮らしをつくる」をミッションに掲げる（株）やまとわを立ち上げる。暮らしの提案が森と暮らしをつないでくことを目指して、森づくりからモノづくり、自然×クリエイティブ事業などに取り組んでいる。2023年より伊那谷の農と森のインキュベーション施設 inadani seesの企画運営も担当。

第2回
「森を次につなぐ ものづくり、事業づくり」
 登壇者・司会者紹介



のじ のぶたか
野地 伸卓 (株式会社nojimoku)

株式会社nojimoku代表取締役。
 大学進学後東京でバンド活動にのめり込み、2003年、家業である製材所を継ぐために熊野に帰る。社員達と一緒に製材して木材に向き合い、お客様とのやり取りを通じて初めて製材所の真の価値に気付く。味わう暮らしをつくる製材所として、製材や林業がおもしろいということを楽しく伝えられる様々なコンテンツを仲間とともに製作、発信し続けている。「熊野林星会」で考案した「セーザイゲーム」がウッドデザイン賞2023で優秀賞を受賞。



よしみず じゅんこ
吉水 純子 (QUSUYAMA LLC.)

幼少より音楽業界の中で育つ。
 2011年 3.11を切掛に合同会社楠山設立しアロマや化粧品原料等の輸入販売業者を担う。
 2019年 日本の荒廃した森林環境の実状に衝撃を受け環境保全に繋がる森林資源利活用商品開発へ移行。現在は国内外に於いて素材調達、商品開発コンサルタント、国立大学、森林組合、一部上場企業等の商品開発受注実績多数、土木空間保全技術研究会所属、JICA技術協力プロジェクト専門家としても活動中。



すぎやま やすひこ
杉山 泰彦 (一般社団法人ねばのもり)

一般社団法人ねばのもり 創設者
 2017年より、地方と都会の繋がりを支援する株式会社WHEREに参画。地域PR・移住定住サポート事業等で合計20地域のサポートを行ったのちに、2018年12月に東京から長野県根羽村に自らも移住。2019年4月-22年3月までは総務省・地域おこし企業人として根羽村PR戦略担当を務め、任期中に2年連続社会増を実現し、地域の魅力づくりに貢献。20年8月に社団法人を立ち上げ、「村ごこち”の良い里山の風景を持続する」活動を行っている。



おおくぼ ゆうき
大久保 裕貴 (根羽村森林組合)

根羽村森林組合総務課長。
 進学で上京し、自然のある暮らしを求めて根羽村にUターン。伐採から建築用材への加工、さらに商品づくりまでできる一貫した設備を持つ森林組合の総務全般、企業との折衝や森林組合のJ-クレジット創出などを担う。生き様がかっこいい根羽の森に関わる人たちの姿を見て、林業がかっこいい仕事として広がるよう輝く農山村地域プロジェクトのコアメンバーとして活動

第3回
「豊かに生きる 森と村」
登壇者・司会者紹介



おおくま みつる
大熊 充 (うきはの宝株式会社)

福岡県うきは市という過疎地域で6年前から「ばあちゃんビジネス」という75歳以上のばあちゃんたちが働く会社、うきはの宝株式会社を立ち上げ経営しております。6年目より、念願だったばあちゃんたちだけでなく、じいちゃんたちにも仕事を創り出し始め、高齢者の輝く場、働く場で創っています。さらに進む日本の超高齢化社会において、高齢者が元気に健康に働いたり経済活動に関わっていくのは必要不可欠だと考えております。



こうざん あきら
幸山 明良 (ハッピーマウンテン)

岐阜県瑞浪市出身、1985年生まれ。新卒でなかほら牧場(岩手県)に就職。牛が牛らしくあれる環境と、酪農の六次産業を約4年間学ぶ。その後熊本県菊池市で独立するも、熊本地震を契機に長野県根羽村で再起をはかる。学生時代から抱いていた「経済動物って何?」の疑問から、牛のいる山で1年間のテント生活をする。日々、牛と山と人が織りなすハーモニーに魅了されている。



たきうち とおる
瀧内 貫
(一般社団法人ローカルイノベーションイニシアチブ)

一般社団法人ローカルイノベーションイニシアチブ共同代表、ミリグラム株式会社取締役、長野県立大学非常勤講師。地域に根ざし、デザインディレクションや企画コーディネートなど、様々な分野の「橋を架ける仕事」として、グラフィックデザイン、コミュニティデザインを基軸としながら活動。多様なコミュニケーション、複数のプロジェクト企画などを組み合わせた、立体的なディレクションを得意とする。

根羽村で流域連携を考える

1/23-24 は長野県根羽村を訪れました。

当基金事務局長の尾崎が、根羽村主催のトークイベント「森とまちの流域学」への登壇をご依頼をいただいたためです。

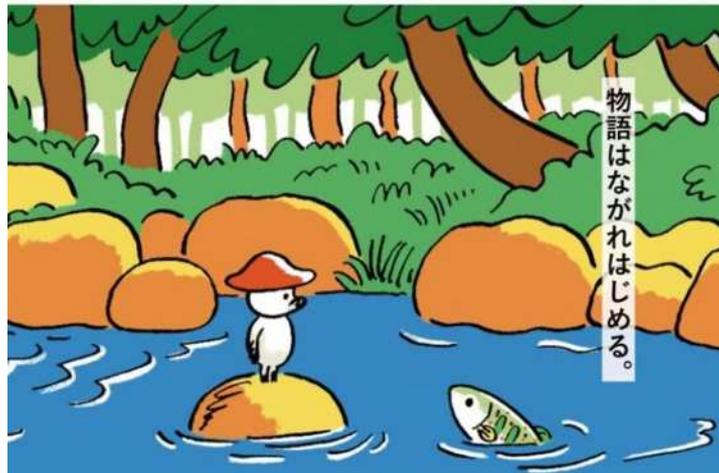
2日目には、現地視察として根羽村森林組合さんと山地酪農を行うハッピーマウンテンさんの視察もしてきました。

流域がつながり合う経済圏を考える全3回のトークイベント

根羽村 森とまちの流域学

2025年1月23日(木) 1月31日(金) 2月6日(木)

時間：全回 15時 - 18時 会場：根羽村役場 やまあいホール



第一回

杉の森から考える流域の森作り

2025年1月23日(木) 15時 - 18時

 司会者 奥田悠史 株式会社やまとわ	 小森胤樹 フォレストスターズ合同会社	 登壇者 尾崎康隆 一般財団法人もりとみず基金
--	--	--

長野県根羽村は、愛知県と岐阜県に接する長野県の北端に位置しています。人口はおよそ 800 人の小さな村です。根羽村は愛知県を流れる矢作川の最上流域にあたり、以前から矢作川の流域連携の一自治体としてもその役割を担ってきています。

7月に訪れた豊田市矢作川研究所へのヒアリングの中でも名前が聞かれた自治体です。

根羽村の森林管理の大きな特徴は、全村民が森林組合員だということ。村民にとって、森林やその管理を担う森林組合が重要なものだという理解がここから見られます。

今回実施された「森とまちの流域学」では全3回のトークイベントが企画されています。

根羽村において森林を中心とした村の振興、そのための流域連携を考えるように企画されています。第1回となる今回は、登壇者として当財団の尾崎とフォレストーズ合同会社の小森胤樹さん、司会者として株式会社やまとわの奥田悠史さんが招かれました。

小森さんは、本山町で森林ゾーニングのコーディネーターや地域フォレスターの育成事業にも関わっておられる嶺北地域とも関係の深い方で、今回一緒に登壇したのはたまたまではあったのですが、嶺北地域の事例をより深めていただきました。

トークイベント

ゲストトークとして、小森さん、尾崎の順で話題提供が行われました。

小森さんからは、バックキャスト思考での森林管理の重要性から、その推進役としての地域フォレスターという存在の重要性が提起されました。



尾崎からは、当財団の取組み概要を紹介した上で、ランドスケープアプローチという概念を手掛かりに、「林業と環境の総合性」、「都市と地域の総合性」を踏まえた流域連携の必要性といった論点で話題提供をしました。



その後のディスカッションでは、当財団の立川も加わり、司会者の奥田さんを中心に 4 人で議論が行われました。特にテーマとなったのは、フォレスターの役割や実際の動き方、流域連携を作っていく上での課題や今後の展開、地域の森林ビジョンについて、各自から発言がありました。

まだまだ定義があいまいなフォレスター、地域フォレスターという立場に対して、流域全体を見ながら林業と環境のバランスや両面での活用法を考えていく個人ないし組織の在り方というのが議論できたように思います。

会場からは、地域の森林ビジョンの考え方、都市地域へのアプローチの仕方、地域材活用について質問をいただきました。来場者は 40 名ほどで、後に関係者から聞いたところによると、根羽村森林組合の職員さんに加えて、下流の愛知県からの参加者も多かったようです。

当日の様子が南信州新聞さんで紹介されました。

https://minamishinshu.jp/2025/01/25/575459/?fbclid=IwY2xjawlDIjpleHRuA2F1bQlxMAABHW9m1bMvl6Uf8yK3sr8mvvwOxC8X8_Qg10GOJHQpu2cOjIIDFqLK4LRW3Q_aem_keCx-y-EclmcJ6NwwA3pEg

根羽村での視察

2 日目には、根羽村総務課さんと根羽村森林組合さんのご案内で、村内視察を行わせていただきました。

午前中は、根羽村森林組合さんの現場と製材所の視察です。

現場 1 カ所目は、現在皆伐作業を行っている場所です。作業中の現場の方ともお話をすることができました。皆さん、トークイベントにも来ていただいていたようで、イベント内で出た話題をもとに、根羽村森林組合さんの現状などを教えていただきました。



現場はタワーヤードで集材をしている現場だったのですが、使っているタワーヤードが見たことのない比較的小ぶりの機械で、機械の性能についても教えていただきました。これぐらいの小ぶりなものだったら嶺北地域でも活躍の場があるんじゃないかと感じたところです。



現場 2 カ所目は、現在計画中の現場を案内していただきました。

国道沿いの現場で、山主さんからは皆伐を依頼されているとのこと。国道沿いということもあって、防災上注意すべきことや、皆伐後の更新についてなど、プランナーの方々と技術的な議論をさせていただきました。



最後に、根羽村森林組合さんの製材・木材加工場を見学させていただきました。

根羽村森林組合さんは、設計士や工務店から一棟ごとに必要な製材品の直接注文を受けており、注文に応じた造材、製材を行っています。構造材だけでなく、内装材や羽目板加工も手掛けており、少量ながらも多様な商品を山側と連携しながら生産している様子が見られました。



根羽村森林組合 HP<https://nebaforest.net/>

午後には、山地酪農を営むハッピーマウンテンの幸山明良さんに、所有林の案内をしていただきました。幸山さんは、酪農だけでなく、所有林の資源を最大限活用するような取組みを行っています。

放牧用に皆伐した山に生えている山菜の販売、広葉樹を用いた原木シイタケの生産に始まり、コケの生産販売、林内に生えている香りのする木を使ったアロマの生産や交流事業での活用、遊び場としての活用、など非常に多岐にわたる自然資源の活用が行われていました。



中央が幸山明良さん

体験や研修、ネイチャーガイドの受入れもしており、昨年は数千人の来場者があったとか。

また、信州大学などの研究機関にもフィールドの提供をしており、山林内を流れる沢の水量・水質調査や、ササの間から生えてきている樹木の樹種調査などが行われていました。



フィールドを歩いていて、ここにはこんな木があって、これにはこういう特徴や使われ方があって、今後はこうしていきたいんですよねーと、どんどん話が出てきて、楽しく森を回らせていただきました。素直にこの自然で遊びつくそうという楽しい雰囲気を感じられて、とても魅力的な取組みでした。

空間利用、材木以外の森林資源の活用という点で、とても学びの多い視察となりました。



ハッピーマウンテン ホームページ

<https://happymountain.studio.site>